

# 2006 年度のレビューと2007年度の課題

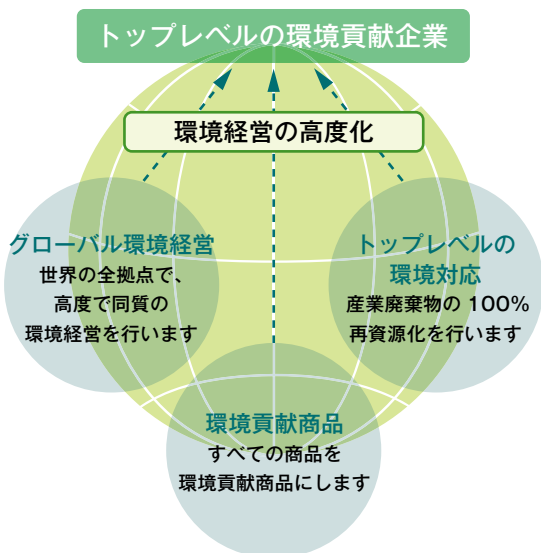
執行役員 環境保護推進室担当兼タイヤ技術本部長 水本 康博

## 地球温暖化防止は世界のテーマ

横浜ゴムグループは、地球温暖化防止を最優先課題として環境経営の高度化に取り組んでいます。私はアル・ゴア前米国副大統領の「不都合な真実」を書籍で読みましたが、危機に瀕した地球環境への思いを新たにしました。また今年6月、ドイツで開催されたG8でも、2050年までに温室効果ガス排出量半減(2000年比)が主要議題となりました。このように世界の国々が官民間問わず動き始めている現在、横浜ゴムグループとしても積極的に地球温暖化防止に貢献していきたいと考えています。

### 「GD100」フェーズ I の3つの指針

横浜ゴムグループは、2006年度からスタートした新中期経営計画「GD100」で、トップレベルの環境貢献企業を目指すことを明らかにしました。まずフェーズ I (2006~2008年度の3カ年計画)で、環境経営の高度化を強力に推進する計画です。そのために「グローバル環境経営」、「環境貢献商品」、「トップレベルの環境対応」の3つの指針を掲げています。



## 2006 年度の活動成果

地球温暖化防止の観点から2006年度を振り返ると、次のような特徴があげられます。

### ●生産・物流の分野

地球温暖化に直結する温室効果ガス排出量は、8.2%の削減(1990年度比)を実現しました。主要タイヤ工場での重油から天然ガスへのエネルギー転換、コージェネレーションシステム導入が大きな効果を発揮しました。物流面では昨年度から輸送エネルギーとCO<sub>2</sub>排出量の集計を開始しました。この結果、タイヤ商品の輸送時のCO<sub>2</sub>排出量が全体の8割を占めることが明確となり、きめ細かい対策を策定しました。またサプライチェーンの観点から物流、調達面で取引先との連携強化を図りました。

### ●商品開発の分野

横浜ゴムでは、2017年度までにすべての商品を環境貢献商品にする目標を掲げています。これを実現するため、まず「環境貢献商品」とは何かの定義を明らかにしました。4つの環境機能を数値で評価し、すべての環境機能が従来品を上回る新商品を環境貢献商品と呼ぶこととしました。この結果、商品に占める環境貢献商品の比率も明確化できるようになりました。2006年度の環境貢献商品が占める割合は、全商品中47%、新商品中77%です。

### 環境貢献賞制度を制定

横浜ゴムの全部門及びグループ会社が環境「GD100」に対して理解を深め、さらに行動を促進するため、その成果・努力について顕彰する環境貢献賞制度を2006年度に制定しました。2006年度の実績部門及びグループ会社は下記の通りで、2007年5月25日に表彰式を行いました。

環境貢献ファクトリー賞	優秀賞:三島工場 努力賞:施設管理部 :ヨコハマタイヤ フィリピン INC.
環境貢献オフィス賞	優秀賞:該当なし 努力賞:ヨコハマタイヤ静岡販売(株) :横浜ゴム MBT(株) :台湾横 浜輪胎股份有限公司
環境貢献プロダクツ賞	優秀賞:MB 事業開発部 努力賞:ハマタイト技術部 :TB 設計部・タイヤ材料設計部

## 2007年度の課題

2006年度の反省を踏まえ、2007年度は特に次の取り組みを強化します。

### ●廃棄物発生量の削減

2008年度までに35%削減(1996年度比)の目標を立てていますが、2006年度は逆に前年度比0.8%の増加となりました。目標未達を真摯に受け止め、2007年度は製品屑削減などの抜本的対策を実施することで、2006年度比20%削減の目標を立てています。

### ●グローバル環境経営

現在、海外生産グループ会社9社がISO14001の認証を取得し、環境経営のよりどころとしています。しかし世界で同質の環境経営を実現するには、横浜ゴムとレベルを合わせた環境経営が必要です。例えば、京都議定書の調印に参加していない国々でも、その国にあるグループ会社はすべて横浜ゴムと同一目標を掲げねばなりません。こうした体制を早期に確立すべく、グローバルな取り組みを強化していきます。

### 環境経営に関する自己評価

#### 2006年度に改善が進んだ課題

- ・京都議定書に対応した温室効果ガス排出量の削減
- ・物流の環境負荷量数値化とCO<sub>2</sub>排出量削減策の実施
- ・サプライチェーン対応(化学物質管理、調達、物流)
- ・ゼロエミッションの継続
- ・環境貢献商品の定義化と環境貢献商品比率の数値化
- ・環境貢献商品開発(乗用車/トラック・バス用タイヤ新商品発表)

#### 2007年度以降の課題

- ・産業廃棄物発生量の削減
- ・グローバル環境経営の強化
- ・環境経営に関する情報開示
- ・環境社会貢献



### ●環境社会貢献

国内生産事業所、海外生産グループ会社では、さまざまな形で地域社会との交流を行っていますが、これら活動のうち、横浜ゴムグループから働き掛けて実現した活動は限られているのが現状です。こうした反省を踏まえ、今年度から工場に植樹し、杜を育てる「YOKOHAMA 千年の杜」プロジェクトをスタートすることにしました。同プロジェクトを通じて、地球温暖化防止を進めると共に、生産事業所側から積極的に地域社会との交流を深めていきたいと考えています。

横浜ゴムグループは、創業100周年を迎える2017年度において、トップレベルの環境貢献企業になることを目指し、これを実現する柱として、3年ごと全4期12年(フェーズⅠ～Ⅳ)にまたがる環境中長期計画を立てています。これは、環境貢献活動は長い期間にわたり地道な活動を積み重ねることで、はじめて効果が現れるとの認識によるものです。2007年度も同計画に基づき、ひとつひとつ課題をクリアしていく考えです。